

国語科年間指導計画【3年文学国語(総合・美術コース)】

■単位数	2	■使用教科書(出版社)	探求 文学国語(桐原書店)
------	---	-------------	---------------

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的・的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書を楽しむ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■内容

(知識及び技能)

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。

イ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにすること。

ウ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めること。

エ 文学的な文章における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。

(2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文学的な文章を読むことを通じて、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。

イ 人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。

(思考力、判断力、表現力等)

A 書くこと

ア 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。

イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。

ウ 文体の特徴や修辭の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。

エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

B 読むこと

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。

イ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。

ウ 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。

エ 文章の構成や展開、表現の仕方、感じ方、解釈の多様性について考察すること。

オ 作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。

カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を深めること。

キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のもの見方、感じ方、考え方を深めること。

■評価の観点とその趣旨

(1) 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
(2) 思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばしているとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めているとともに、生涯にわたって読書を楽しむ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

■指導計画

月	単元名	知識及び技能				思考力、判断力、表現力等								言語活動	教材	評価の観点及び評価方法	配当予定時数					
		(1)		(2)		書くこと				読むこと												
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ					ウ	エ	オ	カ	キ
4	イントロダクション				●																	1
	構成や展開を工夫する		●							●									本文の構成について話し合う	愛のサーカス	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	4
5	表現の仕方を踏まえ、多様な解釈をする			●										●				表現の特徴について考える	少年という名前のメカ	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
	内容を的確に捉える	●								●								内容について話し合う	檸檬	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
6	語り手の視点を意識して、内容を解釈する			●							●							作品の解釈につまどめる	詩(草野心平、谷川俊太郎)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	4	
	作品の解釈を踏まえ、考えを深める														●			エッセイを書く	客ざらい	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	4	
7	多様な解釈を考える		●									●	●					作者の意図を考察する	氷男	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	4	
9	自分の物の見方や考えを深める															●		複数の資料をもとにまとめる	畜犬談	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	6	
	作品の解釈を深める															●		解釈について発表する	俳句	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
10	展開を正確に捉える				●						●							展開について考察する	舞姫	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	6	
	複数の情報を整理し、表現したいこと明確にする				●					●								複数の資料をもとに、自分の主張を書く	詩人のふるさと	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	6	
11	助言を踏まえて自分の作品をどらえなおす		●							●								作品についてアドバイスをする	短歌	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
	解釈を踏まえ、自分のもの見方を深める										●					●		社会とのつながりを考える	参加する観客-映画の「意味」	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	7	
12	読み手を引き付ける独創的な文章を考える	●								●								書かれている内容を吟味する	短編小説を書く	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	4	
1	作品の背景を踏まえて、内容の理解を深める				●										●			内容について話し合う	変身	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	7	
	助言を踏まえて書く		●							●								エッセイを書く	エッセイを書く	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	2	
2																						
3																						
単元数		2	3	3	2	2	2	1	1	1	1	2	2	1	1	2	2	2	1	配当予定時数合計	75	
配当予定時数		6	4	4	7	11	4	4	4	9	12	11	6									

「書くこと」に関する指導の配当予定時数 21 時間 (4単位の場合30~40時間程度)

「読むこと」に関する指導の配当予定時数 57 時間 (4単位の場合100~110時間程度)

教科	科目	単位数	学年	集団
公民	政治・経済	3	3年	総合コース

使用教科書	副教材等
最新政治・経済(実教出版)	テーマ別資料 政治・経済2026(東京法令出版) 最新政治・経済 演習ノート(実教出版)

科目の目標 1. 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。 2. 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。 3. よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。
--

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
②思考・判断・表現	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。
評価方法	
・定期テスト ・課題、レポートなどの記述内容 ・小テスト ・グループワーク、プレゼンテーションなどの活動に対する取り組み ・振り返りの記述内容	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	現代日本の政治	民主政治、法、世界の政治制度、日本国憲法(成立過程、基本原理、自由権、平等権、社会権、参政権、請求権、新しい人権)、人権の国際化	日本国憲法の基本原理と人権について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。	○		
			基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。		○	
6	現代日本の政治	平和主義、日米安保、国会、内閣、裁判所、地方自治、政党政治、選挙制度、世論と政治参加	公共の福祉について主体的に追究することを通して、個人と個人の権利の衝突を調整の方法を社会生活に生かそうとしている。			○
			日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制が生まれた背景、日本の統治機構と国政・地方自治、選挙制度について理解している。	○		
7	現代の日本経済	経済思想、市場機構、企業、国民所得と経済成長、金融、財政、戦後日本経済史	教科書の記述の内容理解を踏まえたうえで、平和主義や統治機構、地方自治、選挙について多面的に考察し、適切に表現している。		○	
			日本の政治制度を理解したうえで、身近な地域の興味関心を持ち、人口動向が地域に与える影響や一極集中にともなう課題の解決策などを積極的に追究している。			○
9	現代の日本経済	経済思想、市場機構、企業、国民所得と経済成長、金融、財政、戦後日本経済史	生産・分配・消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解している。	○		
			資本主義経済の成立以降、社会がいかに変容し、それに伴い経済制度がどのように展開していったか、企業・政府の役割の変化と関連させて考察している。		○	
			経済成長による経済的な豊かさと幸福について、数値化することが困難な経済活動や生活の諸行動をどのように評価するべきかという観点から、主体的に考えを導きだそうとしている。			○

10	現代の日本経済	中小企業、農業、消費者問題、公害・環境問題、労働問題、社会保障	典型的な消費者問題や悪質商法にはどのようなものがあるかなど、経済社会の一員として必要な知識を有している。	○		
			人口減少社会が直面する経済的課題について協働的に考察したうえで、そのための経済政策を選択・判断し、表現している。		○	
			よりよい社会の実現のために、他者との協働もはかりながら、経済学の視点から多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。			○
11	現代の国際政治	国際社会と国際法、国際連合、人種・民族問題、軍拡・軍縮、日本の外交と国際関係	領土問題など、国際問題がなぜ生じるのか、また、どのように解決することが望まれているのかを理解している。	○		
			国連改革・安保理改革の必要性など国際社会が抱える政治的問題について、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。		○	
			国際貢献について主体的に追究し、政府レベルや企業レベル、市民レベルの観点から、課題を意欲的に解決しようとしている。			○
12	現代の国際経済	貿易と国際収支、外国為替市場、戦後国際経済史、地域経済統合・グローバル化、新興国・途上国、地球環境問題、資源・エネルギー、経済協力と日本の役割	円高や円安が日本経済に与える影響について、輸入業者や輸出業者の具体的な取引をもとに理解している。	○		
			グローバル化と地域的経済統合など、賛否の分かれる国際経済上の問題に対して、自由と公正の観点から協働的に考察し、適切に表現している。		○	
			世界の貧困状況やそれを解消するための取り組みについて興味関心をもち、「国際経済格差の是正を探究するための意欲を高め			○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎	2	3年	総合コース

使用教科書	副教材等
改訂版 新編 生物基礎(数研出版)	三訂版 リードLightノート生物基礎 (数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を身に付けることを目指す。</p> <p>・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
② 思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。

<p>評価方法</p> <p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等 思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等 主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画				評価の観点		
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	①	②	③
一学期 中間テスト	生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	・生物がもつ共通性について理解している。 ・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解できる。	○		
			・さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
一学期 期末テスト	遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	・DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 ・体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。	○		
			・DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるという規則性に気づき、説明できる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
二学期 中間テスト	ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節 免疫のはたらき	・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 ・免疫のはたらきを理解する。	○		
			・運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 ・学習内容をもとに、病原体に対する免疫のはたらきを考察でき ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
二学期 期末テスト	生物の多様性と生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 ・世界や日本に見られるさまざまなバイオームの成立条件を理解する。	○		
			・遷移の過程を示した資料をもとに遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し説明できる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
三学期 学年末テスト	生物の多様性と生態系	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系保全のために行われている活動を理解する。	○		
			・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	2	3年	3学年

使用教科書	副教材等
	ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)

科目の目標 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、 ・運動の多様性や体力の必要性について理解している。 ・運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、 ・合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 ・解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、 ・公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 ・健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。

評価方法
・運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等) ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等) ・取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等)

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
5	球技	ネット型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
			球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
		ゴール型	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	

			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
6	水泳	クロール、平泳ぎ	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○

7	体育理論	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ	スポーツの文化的価値や、心身の健康保持増進・生活の質(QOL)の向上に果たす役割を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			ライフステージ(発育期、成人期、高齢期など)に応じた心身の変化と、適切なスポーツの関わり方を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			生涯にわたってスポーツを享受することの意義について、多角的な視点から自分の考えをまとめることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			スポーツの多様な価値を認め、日常生活の中で積極的に運動に親しもうとする意欲を持つことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
9 10	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 (新体力テスト、体力を高める)	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
11	球技	ベースボール型	身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			自己やチームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
	ダンス	現代的なリズムのダンス (女子)	ダンスには、その踊りの特徴と表現の仕方があることを理解している。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			ダンスの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間と伝え合い、合意形成を図っている。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			課題について、互いに助け合い教え合おうとしている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
12	体育理論	スポーツを推進する取り組み	行政や地域の役割、スポーツ環境の整備、共生社会の実現に向けた推進体制について正しく理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			スポーツ推進のための課題を把握し、誰もが平等にスポーツを享受できる環境のあり方について検討できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			スポーツを支える活動の重要性を認識し、より良いスポーツ環境の形成に協力・参画することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
1 2	球技	ゴール型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
2	体育理論	豊かなスポーツライフの創造	科学的な知見に基づき、自分に適したスポーツプランの設計方法を習得できる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			卒業後のライフスタイルを展望し、無理なく継続できる合理的な「マイ・スポーツプラン」を作成できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			作成したプランに基づき、生涯にわたる豊かなスポーツライフを自ら創造しようとする態度を形成できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育(スポーツⅡ)	2	3年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
	ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)

科目の目標
<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。</p> <p>(2) 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツⅡを通してスポーツを推進及び発展するための事項を理解している。 ・体力や技能の程度、性別や目的、障害の有無など様々な違いを超えて、スポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践している。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・発見した動きの改善点や、効果的な改善策について、活動場面で判断し仲間に伝えることができる。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともにスポーツⅡを楽しむための調整の仕方を見つけている。 ・多様(目的、年齢、性別、経験、障害の有無など)な参加者と共に運動するための調整の仕方や競技会の運営方法を提案している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・公正、協力、責任などのスポーツの持続可能性及び規範を遵守する社会の創造に寄与する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・多様性・共生などのスポーツを通じた共生社会の実現に寄与する学習に意欲を高めようとしている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等) ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等) ・取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等)

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7 9 10 11 12 1	球技 ①～⑤の選択	①ネット型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
		②ゴール型	球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
			選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
		③ベースボール型	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
			身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	○		
		④ターゲット型	移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	○		
			バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。		○	
			自己やチームの課題の解決に向けて考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。			○
		標的までの距離や方向、ボール等のスピードや回転をコントロールするための体の動きを中心に扱うことができる。	○			
		合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○		
		ルールや用具、競技人数や競技場所を変えて全員が楽しめるようにゲームを行うなど、多様な楽しさを味わう方法を発見している。		○		
		自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○	

⑤ゴール型	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
	自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーションⅡ	4	3年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
Power On English Communication Ⅱ	Power On English Communication Ⅱ WORKBOOK Database 3300 基本英単語・熟語

科目の目標 (1)聞くこと 日常的话题について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 (2)話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 話すこと[発表] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (3)読むこと 日常的话题について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。 (4)書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。 ・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 ・これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	
ペーパーテスト パフォーマンステスト	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	Vending Machine	Lesson 4	海外のウェブサイトから内容を読み取ることができる。	○	○	
			自分の住む地域に設置する自動販売機を紹介するポスターを作成し、発表することができる。		○	○
5	Braille Neue	Lesson 5	ブレイルノイエの開発者のインタビューを聞き、開発の経緯を読み取ることができる。	○	○	
			校内でのユニバーサルデザインの導入の具体案を提案することができる。		○	○
6 7	New Banknotes	Lesson 6	新紙幣についての記事を読み、目的や理由を明確に読み取ることができる。	○	○	
			新紙幣をデザインを考え、それについてグループ内で発表し合うことができる。	○		○
9	Some Secrets about Colors	Lesson 7	色が人々に与える影響について、それぞれの色の効果の違いを読み取ることができる。	○	○	
			色の心理的効果を考慮して、部屋の内装についてアドバイスをし合うことができる。		○	○
10	Powdered Natto	Lesson 8	納豆パウダーについて、その活用方法や利点、可能性を読み取ることができる。	○	○	
			納豆パウダーについて、セールスポイントを明確にして実演販売を演じることができる。		○	○
11 12	Flying after Her Dreams	Lesson 9	ベシー・コールマンの経歴、人物像、夢などについて、詳細を読み取ることができる。	○	○	
			インタビュー活動で聞かれる質問と回答を考え、お互いにインタビューすることができる。		○	○
1	To Work or Not to Work?	Lesson 10	ロボットと仕事についての論説文を読み、内容を整理しながら読み取ることができる。	○	○	
			自分の今後の進路について、具体的な内容を発表し、質問し合うことができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	生活と福祉	2	3年	総合コース

使用教科書	副教材等
	生活と福祉(実教出版)

科目の目標 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技術	ライフステージごとの心身の特徴や健康管理について、具体的な事例を通して理解している。また、高齢者福祉に関する法規や制度・サービスについて背景や概要を理解しており、介護予防の考え方にもとづき、自立生活支援と介護に関する基礎的な知識を習得し、実践的な技術が身についている。
② 思考・判断・表現	高齢期にいたるまでの健康づくりについて、さまざまな健康観から考えることができる。また、介護や看護について課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域の高齢者の生活に関心をもって積極的ににかかわろうとしている。

評価方法
・授業に対する姿勢(発表の内容やプリントへの取り組み状況) ・提出物(家庭生活に関する課題) ・ホームプロジェクト(レポートや製作物) ・実習・実技(技能・製作物や作品) ・定期試験(学習内容の理解・定着度)

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	健康と生活	健康に関する諸概念	・QOLの概念や、QOLの向上のための考え方を知る。	○		
		ライフステージと健康管理	・各ライフステージにおける健康課題や目標を知る。	○		
	少子高齢化の現状と高齢者の特徴	少子高齢化の現状	・日本の高齢化の要因と推移について理解する。	○		
		家族・地域の変化	・高齢化や世帯構成の地域差を理解し、地域の実情に即した福祉サービスを考える。		○	
一学期期末テスト	高齢者の自立支援	高齢者の心身の特徴	・加齢に伴う心身の変化と個人差について知る。	○		
		高齢者の病気	・高齢者の恒常性機能と老年病について知る。	○		
	高齢者支援の法律と制度	高齢者にみられる主な疾患や症状	・麻痺・視覚障害、認知症の症状とその対応を知る。		○	
		高齢者の生活課題と施策	・高齢者の主な生活課題について知る。	○		
二学期中間テスト	介護の実習	人間の尊厳尊厳	・事例から高齢者の自立生活を支える地域の役割について理解している。			○
		高齢者介護の考え方	・介護予防や家族への支援を理解し、高齢者介護の考え方を考察する。			○
	高齢者支援の法律と制度	コミュニケーションと介護	・言語障害・麻痺・視覚障害・認知症などがある高齢者の介護を理解する。			○
		社会保障・社会福祉制度のしくみ	・高齢社会に対応した社会保障や社会福祉制度を知る。			○
二学期期末テスト	介護の実習	介護保険制度のしくみ	・介護保険制度のおもな介護サービスやサービス利用までの流れについて理解する。			○
		さまざまな高齢者支援のしくみ	・高齢者支援のさまざまな制度について知る。			○
	介護の実習	地域共生社会	・地域包括ケアシステムの概要を知り、地域共生社会の考え方を理解する。			○
		体位変換	・ボディメカニクスの基本原則を知る。	○		
二学期期末テスト	介護の実習	歩行介助	・歩行の意義と目的を理解する。	○		
		車いすの移乗・移動の介護	・場面による移乗方法を体験する。			○
	介護の実習	食事の介護	・高齢者の「食べる」行為を考察する。			○
		ベッドメイキング	・シーツ交換を体験する。			○
二学期期末テスト	介護の実習	衣服の着脱の介護	・着脱介護を体験する。			○
		からだの清潔の介護	・からだの清潔の意義と目的を理解する。	○		
	介護の実習	排泄の介護	・排泄の意義と目的を理解する。	○		
		褥瘡の予防	・褥瘡予防を考える。			○
二学期期末テスト	介護の実習	災害時の介護	・避難所でも利用できる生活支援技術を体験する。			○
		家庭看護の意味	・家族が病気になったときの基本的な看護の心構えを理解する。	○		
	介護の実習	バイタルサイン(生命徴候)の見方	・体温・脈拍・呼吸・血圧測定など看護の基本的な技術を習得する。			○
		口腔の清潔	・口腔内の方法を知り、口腔ケアの基本的な介助のしかたを習得する。			○
二学期期末テスト	介護の実習	誤嚥と窒息	・窒息事故の予防の方法や窒息時の対処法について理解する。	○		
		転倒と骨折	・高齢者の転倒と骨折について理解する。	○		
	介護の実習	低温やけど(低温熱傷)	・低温やけどの注意点を知り、低温やけどの予防と対処法を習得する。			○
		脱水	・脱水の確認方法を知り、脱水の予防と対処法を習得する。			○
二学期期末テスト	介護の実習	熱中症	・熱中症の予防と対処法を習得する。			○
		高血圧と低血圧	・血圧の変化と注意点を知り、高血圧・低血圧の予防と対処法を習得する。			○
	介護の実習	糖尿病	・糖尿病の治療と看護の注意点を知り、対処法を習得する。			○
		生活支援の考え方	・高齢者が地域で自立した生活を送ることができるように、衣類の洗濯や補修、調理、買い物、掃除、消費者被害など生活援助に関する技術を習得する。			○
二学期期末テスト	生活支援	レクリエーション	・実践側から、レクリエーションを盛り上げることの留意点について考察する。			○
		高齢者福祉施設の見学	・見学を通して高齢者福祉施設、高齢者の生活をより理解する。	○		
	生活支援	ボランティア活動	・ボランティア活動への参加を通して高齢者に関する知識や技術をいかす。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	フードデザイン	2	3年	総合コース

使用教科書	副教材等
フードデザイン(実教出版)	スーパーライブビュー(東京書籍)

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1)栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3)食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技術	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。
② 思考・判断・表現	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作る場所から食べる場所までを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する姿勢(発表の内容やプリントへの取り組み状況) ・提出物(家庭生活に関する課題) ・ホームプロジェクト(レポートや製作物) ・実習・実技(技能・製作物や作品) ・定期試験(学習内容の理解・定着度) 	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	3章 食品の特徴・表示・安全	1節 食品の特徴と性質	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を習得することができる。 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持つようとしている。 	○		
		2節 食品の生産と流通	<ul style="list-style-type: none"> ・調理を前提として、よりよい食品を見きわめ、購入することができる。 ・食品の生産・流通・加工などの現状における課題について考えをまとめ、レポートを通して発表することができる。 	○		○
一学期期末テスト	3章 食品の特徴・表示・安全	3節 食品の選択と表示	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入食品や様々な加工食品など多種多様な食品の中から、目的に応じて適切な選択ができる。 ・食品について安全や衛生に配慮した適切な判断ができる。 	○		○
		4節 食品の衛生と安全	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の衛生と安全に関する基本的な知識を身につけている。 ・食品の生産・流通・加工などの現状に関心を持つようとしている。 		○	○
二学期中間テスト	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。 	○		
		5章 料理様式とテーブルコーディネート	1節 料理様式と献立 1項 日本料理の様式と献立	<ul style="list-style-type: none"> ・日本料理の代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持つようとしている。 ・食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身につけることができる。 	○	
二学期期末テスト	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	<ul style="list-style-type: none"> ・日本料理の基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。 ・西洋料理の代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持つようとしている。 	○		○
		2項 西洋料理の様式と献立	<ul style="list-style-type: none"> ・食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身につけることができる。 		○	
二学期期末テスト	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋料理の基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。 ・中国料理の代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持つようとしている。 	○		○
		3項 中国料理の様式と献立	<ul style="list-style-type: none"> ・食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身につけることができる。 		○	
学年末テスト	7章 食育	1節 食育の意義と推進活動	<ul style="list-style-type: none"> ・食育基本法の理念を知り、食育に関するさまざまな活動が行われていることを理解できる。 ・食についての課題を見いだし、その解決を目指した食育活動について思考を深めることができる。 ・食育の意義と活動に関心を持つようとしている。 	○		○
		6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。 	○	

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーションⅡ演習	2	3年	総合・美術コース(選択)

使用教科書	副教材等
Power On English Communication II	Smart Choice: 4th Edition Level 1 Student Book with Online Practice

科目の目標
<p>(1)聞くこと 日常的话题について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>(2)話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>話すこと[発表] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(3)読むこと 日常的话题について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>(4)書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。 ・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 ・これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	
ペーパーテスト パフォーマンステスト	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	Nice to meet you	Unit 1	自分自身や友人について、初対面の人に紹介することができる。	○		○
5	What do you do?	Unit 2	様々な人物について5W1Hを用いて職業や住んでいる地域についてたずねることができる。世界各国の人物の人物のスピーチを聞いたり映像を見たりして、人物の特徴を分類することができる。	○	○	
	Do you like noodles?	Unit 3	世界各国の食に関して、それぞれの特徴を表に分類しまとめることができる。	○	○	
6	How often do you exercise?	Unit 4	自分のお気に入りの海外の料理についての紹介をblogに投稿することができる。		○	○
			生活についての調査を、頻度をたずねる表現を使用して行うことができる。	○		
7			調査結果を表すグラフや図を作成し、それらを活用しながら発表することができる。	○	○	
9	I'm listening to music.	Unit 5	写真やイラスト内の人物や出来事について、友人に説明することができる。	○		
			場所や人物の状況が変化するカードゲームを用いて、場面に応じた電話でのやりとりができる。		○	
10	Where were you yesterday?	Unit 6	複数の人物の会話を聞いて、それぞれの人物が抱えている問題とその場所を分類し表にまとめることができる。		○	
			複数の人物の日記を読み、それを参考にして時間の流れを意識した日記を書くことができる。	○		○
11	Which one is cheaper?	Unit 7	自分の好きな服装やブランドについて、紹介し合うことができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	保育基礎	2	3年	総合コース

使用教科書	副教材等
保育基礎(教育図書)	

科目の目標
<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を目指す。</p> <p>(1)保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3)子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技術	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。
② 思考・判断・表現	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決しようとしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 授業に対する姿勢(発表の内容やプリントへの取り組み状況) 提出物(家庭生活に関する課題) ホームプロジェクト(レポートや製作物) 実習・実技(技能・製作物や作品) 定期試験(学習内容の理解・定着度)

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	保育の意義	保育とは何か 育ての心	・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。 ・保育者のあるべき姿とはどのようなものかを考える。	○	○	
	保育の環境	子どもが育つ環境 家庭での養育 さまざまな保育の場 保育ニーズの高まりと課題 集団保育の重要性	・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。 ・現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。	○	○	○
	保育の方法	保育の方法の基本	・子どもの成長には、すべてを受け止めて理解していく大人の存在が不可欠であることを知る。 ・保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べ、子どもの発達における保育・教育の目的や目標について理解する。 ・発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。	○	○	○
一学期期末テスト	子どもの発達の特性	発達とは何か 発達の共通性 発達の個人差 発達と環境	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・子どもが主体的に環境にはたらきかけ、発達していくために、保育者などが応答的にかかわることが大切であることを理解する。	○	○	
	乳幼児の発育と発達	乳幼児期の発育 乳幼児期の生理的特徴 乳幼児期の発達の特性	・乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の発育の特性を理解する。 ・愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。	○	○	
	子どもの健康と生活	子どもの養護 生活習慣の習得	・生活習慣を題材にした絵本などから、生活習慣の習得を促すにはどのような工夫が必要かを考える。	○	○	
二学期中間テスト	子どもの食事	栄養と食生活 乳児の食事 離乳 幼児の食事	・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているかを考察する。 ・幼児食実習や幼児用おやつづくりなど、実習を通じて子どもをイメージする。	○	○	○
	子どもの衣服と寝具	子どもの衣服の役割 子どもの衣服の選び方 子どもの衣服の調節 おむつ 子どもの寝具など	・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・衣服の選択を間違えると、思わぬ事故につながる可能性があることと知り、安全な衣生活について考えることができる。 ・適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。	○	○	○
	子どもの健康と安全	保育者の役割 子どもの病気の特徴 子どものおもな病気 病気の子どもの看護の方法 病気の予防 子どもの安全 子どもの成長と遊びのたがいの危険 応急処置と救急用品	・子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さを理解する。また、病気の際に落ち着いて対処するための知識を得る。 ・住まいに潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考えることができる。 ・発達障がいや医療的ケアをはじめとする、子どもの健康課題について、SDGsと関連させながら理解する。	○	○	○
二学期期末テスト	保育にみる児童観	大人の意のままになる存在 「子ども」の発見	・子どもが保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知る。	○		
	児童福祉の理念と法規制度	児童福祉の歴史 児童福祉の法律 児童福祉にかかわる施設	・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 ・児童福祉法や児童福祉関連施設の概要とその役割について理解する。	○	○	
	子どもと遊び	子どもの文化とは 子どもの文化の現状 児童文化施設 その他の施設	・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 ・近年の少子化、高度情報化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。	○	○	
学年末テスト	子どもと遊び	遊びの意義 遊びの種類と発達 遊びと遊具のかかわり 遊びの現状	・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通じて理解する。 ・子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるかを考える。	○	○	○
	子どもの表現活動	子どもの表現活動の意義 造形表現活動 言語表現活動 音楽・身体表現活動 情報手段などを活用した表現活動	・子どもの表現活動によって培われる能力について知り、表現活動の重要性や意義を理解する。 ・表現活動で子どもの意欲を引き出し、心身を育むための、保育者としての適切なかかわり方を理解する。	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
地理歴史	日本史探究	2	3年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
精選日本史探究(実教出版)	精選日本史探究 演習ノート, 図説 日本史通覧

科目の目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容への取り組み 発問評価 課題、提出物の内容 小テスト 定期テスト 振り返りの内容 対話的な学びに対する取り組み

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	第7章 大日本帝国の展開	開国,倒幕と「ええじゃないか」, 明治維新,文明開化,富国強兵,国境の画定,自由民権運動, 激化事件,大日本帝国憲法	幕府・朝廷・諸藩の立場から幕末の動乱の要因とその結果を多面的・多角的に考察する。		○	
			大政奉還から明治新政府の発足に至るまでの歴史的展開を理解する。	○		
			近代・現代の日本の産業のあり方や課題についての仮説を立てる。			○
			明治国家の国家目標とそれによって形作られた近代社会のあり方から時代を通観する問いを表現する。			○
7 8 9	第8章 大日本帝国とデモクラシー	日清戦争,1900年前後の世界と東アジア,日露戦争,社会問題と地域社会,大正デモクラシー,第一次世界大戦と日本, 資本主義の成長,改造の時代, 植民地	日清・日露戦争による日本の国際的地位の上昇と韓国併合に至る歴史的展開を理解する。	○		
			第一次世界大戦が日本の政治に与えた影響を理解する。	○		
			パリ講和会議とワシントン会議による国際協調体制の形成を日本と欧米の立場から多面的・多角的に考察する。		○	
			日本の近代化において製糸業と紡績業が果たした役割を理解する。	○		
10 11	第9章 アジアの戦争と第二次世界大戦	普通選挙と治安維持法,大日本帝国の選択肢,満洲事変とモダニズム,日中戦争と総力戦,アジア太平洋戦争,敗戦	第一次世界大戦が日本の経済に与えた影響を多面的・多角的に考察する。		○	
			金輸出禁止,金解禁,金輸出再禁止という経済政策の変化の背景にある日本経済の変化を多面的・多角的に考察する。		○	
			満洲事変によって日本が国際社会の中で孤立していく歴史的展開を理解する。	○		
12 1	第10章 現代日本社会の形成と展開	世界のなかの日本占領,占領改革と日本国憲法,朝鮮戦争,日米安保体制と55年体制,高度経済成長,ベトナム戦争とアジア,経済大国,世界の転換と日本社会,グローバル化する世界と日本,「わたしたち」の社会と世界	日独伊三国同盟の形成から第二次世界大戦の終戦に至るまでの歴史的展開を多面的・多角的に考察する。		○	
			日本国憲法制定の過程を日本側の動向にも着目し,多面的・多角的に考察する。		○	
			朝鮮戦争による日本の安全保障環境の変化と日米安保体制の形成の歴史的意味を理解する。	○		
			自由民主党と日本社会党による55年体制の形成と展開が日本の戦後政治の基本構造となることを理解する。	○		
			高度経済成長による日本社会の変化の様相を理解する。	○		
			高度経済成長の終焉からバブル経済の発生に至るまでの日本経済の変化を多面的・多角的に考察する。		○	
2	現代日本の課題の探究	わたしたちの課題を探してみよう	現代日本の課題に関して問いを設定して探究を行い,レポート発表を行う。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学Ⅱ	2	3年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
数研出版 最新 数学Ⅱ	数研出版 3ROUND 数学Ⅱ

<p>科目の目標</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付ける。
②思考・判断・表現	関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力、日常の事象や社会の事象を数理化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身につける。
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

評価方法
知識・技能の評価: テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。 思考・判断・表現の評価: テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。 主体的に学習に取り組む態度: 知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方、授業後の振り返り等もとに評価する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	三角関数		三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解できる。	○		○
5			三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解できる。	○		○
6			三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。		○	○
			二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決しようとする。			○
7	指数関数・対数関数		指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。	○		○
8			対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。	○		○
9			指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。		○	○
10			二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決しようとする。			○
11	微分法・積分法		微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。	○		○
12			導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解することができる。	○		○
1			不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。		○	○
2			積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。		○	○
			関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決しようとする。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	絵画	2	3年	総合コース・美術コース3年

使用教科書	副教材等
	プリント等

科目の目標 絵画に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 表現の形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 (2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 絵画表現の可能性を追及する態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	絵画表現におけるそれぞれの表現形式の特性について理解を深めていること(知識) 発想や構想したことなどを基に、様々な表現方法や材料や用具などを工夫して独創的・創造的にあらわすことができること(技能)
② 思考・判断・表現	絵画表現において、専門的な知識や技能を活用し創造的に発想し構想を練ったり、作品などに対する見方や感じ方を深めたりしていること。
③ 主体的に学習に取り組む態度	「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を身につけようとする意志的側面を、①粘り強さ、②学習の自己調整の視点で評価する。

評価方法
ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	水彩画 風景 人物	水彩画ルールブック(日 貿出版社)プリント使用	透明水彩絵の具及び不透明水彩絵の具のそれぞれの特性と制作 の手順の違いや表現効果について理解し、紙質や地肌、絵肌など を生かした表現技法を工夫することができる。	○	○	○
6 7	古典技法学ぶ ルネッサンス期の 絵画 テンペラ技法 バロック期の絵画 グラッシュ技法	西洋美術館(小学館)プリ ントを使用	フィリップ・リッピ作「聖母子と二天使」を題材にテンペラ画の伝統技 法とカラヴァッジョ作「バックス」を題材にグラッシュ技法を学び習得 する。 その時代特有の画材や表現方法を知り、絵具や多様な画溶液など の材料、筆やナイフなどの用具のもつ特性について理解し、自らの 主題に応じた表現方法を追求することができる。	○	○	○
9 10	自画像	やさしい美術解剖図 (マール社)プリントを使 用	自画像を描くことにより、自己を深く観察するとともに人体頭部の均 衡、律動、比例など人体の美的秩序を確かめ、主体的に対象に向 きあい描きだすことができる。	○	○	○
11 12 1 2	卒業制作		絵画の幅広い表現方法、絵具や多様な画溶液などの材料、筆や ナイフなどの用具のもつ特性について理解し、自らの主題に応じた 表現方法を追求することができる。 3年間の集大成として絵画作品を完成することができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅲ	2	3年	3年総合コース 音楽選択者

使用教科書	副教材等
Joy of MusicⅢ 教育芸術社	高校生のための音楽研究ノート

科目の目標
音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化を深く関わる資質、能力を次のとおり目指す育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を深めたり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価方法			
ア 取り組みの観点	イ 演奏、作品の内容	ウ ワークシート等への記述内容	エ 提出物の内容
アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。			

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう。	表現 歌唱 p.77～87	・曲の表現内容を理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに歌唱表現を創意工夫することができる。	○	○	○
5	リズムの重なり合いや、音色の違いを感じ取ってアンサンブルを楽しもう。	表現 器楽 p.51～55	・曲の表現内容を理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした器楽表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
6	音楽のよさや美しさを深く味わい、文化や芸術としての意味や価値を探ろう。	鑑賞 p.68～73	・音楽の美しさと音楽の構造との関わり及び、芸術としての音楽と文化的・歴史的背景、他の芸術や文化との関わりについて理解する。	○	○	○
7	ポップスの特徴を理解して表情豊かに歌おう。	表現 鑑賞 p.64～67	・曲の表現内容を理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱表現をするための技能を身に付けながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫することができる。 ・歌や歌うことと生活や社会との関わり及び、芸術としての音楽と文化的・歴史的背景、他の芸術や文化との関わりを理解する。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。	○	○	○
2	表現を工夫してリーダーを演奏しよう。	表現 器楽 p.56.57	・様々な音素材や様式、表現形態などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした創作表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに創作表現を創意工夫することができる。	○	○	○
10	和楽器に親しみ、表現豊かに演奏しよう。	表現 器楽 p.53.54	・曲の表現内容や様々な表現形態による器楽表現の固有性や多様性について理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした器楽表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
11	オステナートを聞いた曲づくりや音素材の特徴を生かした作品作りをしよう。	表現 創作 p.35.36	・様々な音素材や様式、表現形態などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした創作表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに創作表現を創意工夫することができる。	○	○	○
12	日本の伝統芸能や世界の諸民族の音楽を体験しよう。	表現 歌唱 表現 器楽 鑑賞 p.110～112	・曲の表現内容や歌や歌うこと、及び曲や演奏することと生活や社会との関わりについて理解する。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱・器楽表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに歌唱・器楽表現を創意工夫することができる。 ・芸術としての音楽と文化・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。	○	○	○
1	3年間のまとめのコンサートを開こう	表現 歌唱 表現 器楽	・歌や歌うこと及び曲や演奏することと生活や社会との関わりを理解し創意工夫や表現上の効果をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに演奏表現を創意工夫することができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	美術Ⅲ	2	3年	総合クラス3年

使用教科書	副教材等
美術3(光村図書)	プリント

科目の目標 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創作活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
② 思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ア創作への取り組み イ仕事の丁寧さ、作品の内容 エアイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	俯瞰で描く	A表現 B鑑賞 絵画 p.12～14	俯瞰で描いた作品を比べ鑑賞する。透明水彩絵の具及び不透明水彩絵の具のそれぞれの特性と制作の手順の違いや表現効果について理解し、紙質や地肌、絵肌などを生かした表現技法を工夫することができる。	○	○	○
5	鉛筆の可能性	A表現 デッサン p.8.9	鉛筆による表現の豊かさを感じ取り、鉛筆の特性を生かしてあらわす。	○	○	○
6	鑑賞及び模写 フリーダ・カーロ	A表現 B鑑賞 絵画 p.10.11	フリーダ・カーロの作品を鑑賞し、カーロの生涯や作品を知り、作品に込められた思いや表現の工夫を感じ取る。模写をすることで作品をより深く理解するとともに配色や筆のタッチを学びとる。	○	○	○
7						
9	イラストレーション アナログ	A表現 絵画 デザイン p.30～35	技法基礎・色彩基礎 分割や配置などの工夫により、変化と統一のある構成ができる。Photoshopを使ったデジタル作品を作る。	○	○	○
10	デジタル		ソフトの操作を覚え、デジタル画面上でのペンタブを使ったイラストレーションの作成ができるようになる。	○	○	○
11	鑑賞及び名画模 写日本画伊藤若 冲	A表現 B鑑賞 絵画	名画を鑑賞し、その時代に作者がどのような意図や心情で描いたかを知る。その後その作品を模写することによって画面構成の意図や絵画的技法を習得する。	○	○	○
12						
1	抽象表現 ものからの問いかけ	A表現 p.62.63	抽象絵画とそれらを描いた作家について知り、色や構図を参考に自分なりの抽象表現で絵画作品を制作する。抽象画の成り立ち、作者の意図と創造的工夫などを理解し、創造につなげられる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	書道Ⅲ	2	3年	総合コース 書道選択者

使用教科書	副教材等
書Ⅲ 光村図書	

科目の目標 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書の伝統と文化と幅広く関る資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)書の表現方法や形式、多様性などについて理解するとともに、。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ表す。 (2)書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統・文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3)主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとする。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	書の表現方法や形式、多様性などについて理解している。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ表している。
② 思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統・文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ワークシートの記入内容、鑑賞カードの記入内容、発表の内容、作品・授業に取り組む姿勢などを基に、総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	書論とは	書論とは	各書体の典型的な字形と用筆について理解し、技法を習得する。	○	○	
5	漢字の書の多様性を楽しむ	篆書 隸書 行書 草書 楷書	各古典の書風を比較し、表現効果を考え取る。	○	○	
6		創作する	漢字の書体の変遷について理解を深める。	○	○	
7				○		○
9	仮名の書の多様性を楽しむ	平安時代・中・後期 鎌倉時代以降		○		○
10		創作する	感興や意図に応じて素材を選び、个性的に表現する。		○	○
11	漢字仮名交じりの書を楽しむ	未来への決意を書こう	高野切第一種の書風の特徴を捉え、臨書する。	○		○
12		生活の中の書	創作を通して、充実感や喜びを味わう。		○	○
1	刻字を楽しむ	刻字を楽しむ	古典の書風を生かすことで、多様な表現が生まれることを理解する。	○	○	○